

第5.1節 八景いろいろ

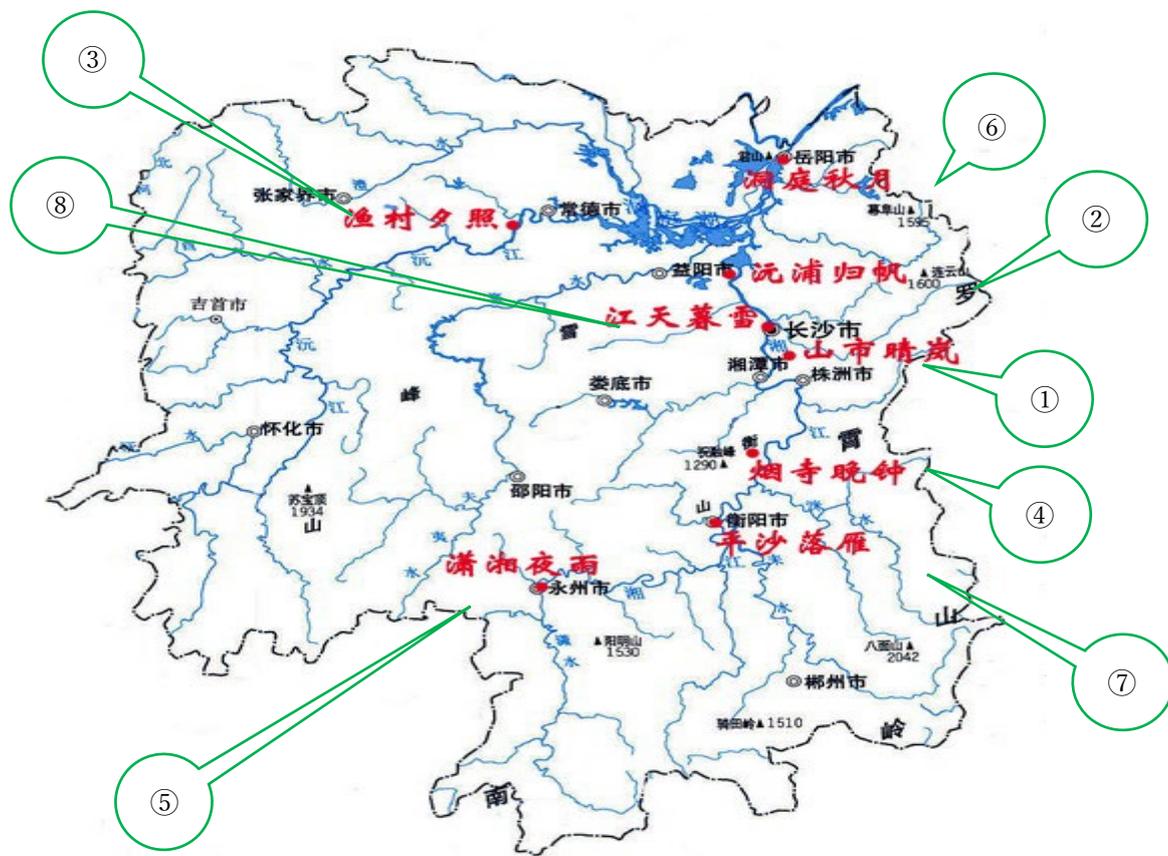
2019年06月 第16号

八景（景色の美しい所）を数回にわたり紹介します。その地域ごとに風光・明媚（めいび 眺めが清らかで優れて美しいこと）な個所をまず目で見て、更に山水画や文人達の詩と共に体全体で鑑賞し、その結果が縁起の良い末広がり「八」（八景）につながるのでしょうか。中国にも末広がり「八」は日本と同様に縁起の良いラッキーナンバーです。

5.1.1 八景の由来

「八景」の意味と歴史をおさらいしましょう。八景の表現は、中国の「瀟湘八景」（しょうしょうはっけい）が始まりとされ、中国の山水画の伝統的な画題であった八つの名所（風景の良さ、史跡、特有の風物、季節の花、特産品等で有名な場所を示す言葉等）と言われています。

瀟湘とは中国の湖南省（こなんしょう）を流れる2つの川の名前（瀟水（しょうすい）と湘水（しょうすい））に基づく地名で、これらが合流して洞庭湖（どうていこ）という大きな湖にそそぐ地域をこう呼んでいます。中国有数の景勝地として名高いこの瀟湘の地は古くからさまざまな神話や伝説に生まれ、数多くの詩人や画家たちが訪れました。美しい場所を一目見たいという欲望は、いつの世も変わるものではありません。北宋時代（11世紀）に活躍した画家・宋廸（そうてき）もそんな一人だったのですが、彼はそこで八通りの景観を選び絵画化しました。これが瀟湘八景のはじまりです。



宋廸（そうてき）（11世紀後半頃－没年不詳）は北宋（ほくそう）時代の高級官僚で、瀟湘への赴任時にこの景色を山水画として描いたようです。蘇軾（そしよく（1037年－1101年））らと交友を深め、

画に巧みで平遠山水（平遠は近くの山より遠い山を望む構図）を得意とした画家でもある宋廸は、日頃からこの地への赴任を強く希望していたのではないかと思います。後に、日本の近江八景や金沢八景は、この瀟湘八景をなぞらえて生まれたものです。

宋廸（そうてき）が選んだ八景を見てみましょう（場所は前ページの図参照）。

- ① 山市晴嵐（さんしせいらん）山里が山霞に煙って見える景色。
- ② 遠浦帰帆（えんぽきはん）帆掛け舟が夕暮れ時に、遠方から戻ってくる風景。
- ③ 漁村夕照（ぎょそんせきしょう）夕焼けに染まるうら寂しい漁村の風景。
- ④ 煙寺晩鐘（えんじばんしょう）夕霧に煙る遠くの寺から届く鐘の音を聞きながら迎える夜。
- ⑤ 瀟湘夜雨（しょうしょうやう）瀟湘の上に、もの寂しく降る夜の雨の風景。
- ⑥ 洞庭秋月（どうていしゅうげつ）洞庭湖の湖上に冴え渡る秋の月。
- ⑦ 平沙落雁（へいさらくがん）秋の雁が鍵状になって干潟に舞い降りてくる風景。
- ⑧ 江天暮雪（こうてんぼせつ）日暮れの河の上に舞い降りる雪の風景。

いずれも心に染み込む独特の情景で、この地域に限定される風景ではなく、味わい（風情）のあるものばかりです。八景の選び方がどの景観も四季や晴雨などの気象や夜などの自国の違いを強く意識して選んでいるところが宋廸の特徴だそうです。彼の意図は瀟湘地方の豊かな自然を表すことにあったようです。そして中国有数の名所への憧れが、日本でも瀟湘八景図が好まれた大きな要因だったと思われます。残念ながら、宋廸が描いた瀟湘八景図は残っていない様です。でも、中国の有名な桃源郷の伝説も、この一帯から生まれたのも、うなずけますね。

（2015年3月17日～2015年4月12日まで、京都国立博物館の名品ギャラリーで展示されていました。）



重文 瀟湘八景図 相阿弥筆 大仙院

5.1.2 近隣諸国の八景

中国は八景発祥の「瀟湘八景」（湖南省長沙市）、「吉林八景」（吉林松省吉林市）、「金州古八景」（遼寧省大連市金州区）、「旅大八景」（遼寧省大連市・旅順南路）、「黄山八勝」、「燕京八景」、「西湖八景」、「上海八景」、「新上海八景」、「香港八景」等があります。

台湾は、「台湾八景」（時代によっては含まれる名勝・景勝地が異なる）、「新高八景」、「新竹八景」、「諸羅八景」等があります。

朝鮮半島は、韓国と北朝鮮に分かれているので、両国に分散しています。「朝鮮八景」（朝鮮半島の8か所の景勝地。朝鮮民主主義人民共和国内の白頭山（ぺくとさん）と天地・鴨緑江（あむのくがん）・金剛山（くむがんさん）・赴戦高原（ぷじょ）・牡丹峰（もらんぼん）（金委員長好みのモランボン楽団です。）と大韓国内の智異山・慶州・漢撃山の8か所）、「平壤八景」（へいじょう）（李氏朝鮮時代から伝わる平壤（ぴょんやん）の8か所の美しい景色）、「関東八景」（朝鮮の昔の関東地方の景勝地からの八景）、「朝鮮関西八景」（かんせい）朝鮮の昔の関西地方の景勝地の八景）、「丹陽八景」（たんにゃん）（韓国忠清北道北東部の丹陽郡の8つの景勝地）、「丹陽第二八景」です。

5.1.3 日本への伝来と全国の八景

1) 伝来時期

日本へ伝わった時代はいつ頃でしょうか。大阪大学の武氏の論文では、平安時代（794年～1185年）に記録されている「漁父詞屏風」「坤元録屏風」「和漢抄屏風」等の資料から、瀟湘地域は平安時代にはすでに中国の名所として伝わっていたと述べています。理由は屏風絵に描かれていた可能性が高いことが示していると言われていました。その後、14世紀初頭の鎌倉時代末に、水墨画家としても名高い中国僧（生没年不明）牧谿（もっけい）（僧名は法常）が描いた瀟湘八景図が日本に伝わり、日本の水墨画や絵画に大きな影響を及ぼしたそうです。牧谿（もっけい）の影響を大きく受けた狩野派等によって、瀟湘八景図が好んで描かれ、日本国内の風景に関心が高まり、江戸時代後半には近江八景や金沢八景等を、葛飾北斎（1760年～1849年）、歌川広重（1797年～1858年）らの人気浮世絵師によって描かれました。これにより、日本各地の八景の誕生に大きく寄与しました。

2) 各地の八景

日本全国の「八景」と称する名勝の箇所は約400か所もあると言われていています。例えば、

琉球八景（沖縄県）、	平戸八景（長崎県）、	別府八景（大分県）、
博多八景（福岡県）、	枚方八景（大阪府）、	寝屋川八景・新寝屋川八景（大阪府）、
南都八景（奈良県）、	甲斐八景（山梨県）、	遠海（とうみ）八景（静岡県）、
福原八景（新潟県）、	赤湯八景（山形県）、	旭川八景・室蘭八景（北海道）、
江戸近郊八景（東京都）、	調布八景（調布市）、	千波湖八景（水戸市）
近江八景・彦根八景・琵琶湖八景（滋賀県）、		
相模川八景・金沢八景・武陽玉川八景（神奈川県）、		
玉川八景または行善寺八景（世田谷区）、		
水戸八景・新水戸八景（茨城県）、		

等です。現実には埋立てや開発で、当時の風景が変化している所もある様です。変わり種は、東京の調布八景です。今から34年前の1985年（昭和60年）に調布市が市制施行30周年の記念に、公募でまとめた八景です。

皆さん今のお住いの地域や地方出身の方々にはその近くにも身近な八景が有るかもしれません。あなたの身近を見渡して、「あなたの八景」を見つけてみませんか。

3) 近江八景（1）

「近江八景」は、江戸後期の歌人である伴資芳（近江八幡出身の京都の商家）は慶長期（1596年～1615年）の関白近衛信尹（のぶただ）自筆の近江八景和歌巻子を知人のもとで観覧し、その奥書に現行の近江八景と同様の名称と情景の取り合わせに至る八景成立の経緯が紹介され、現在はこの記事に基づいて、現行の近江八景の成立は近衛信尹によるものとの見方が有力です。一説には、室町時代後期に近江国に滞在した関白の近衛政家が、当地で和歌八首を詠んだとの説も有ります。しかし、現在では、近江八景の絵画の登場が17世紀（1601年～1700年）後期以降であることを考えると、先行すべき和



歌の成立が、17世紀初期なのは自然との説が有力です。

近江八景の絵画を見ましょう。



石山秋月



勢多夕照



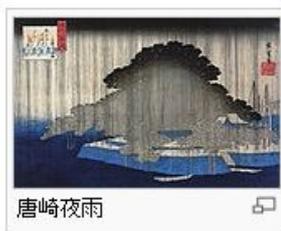
粟津晴嵐



矢橋帰帆



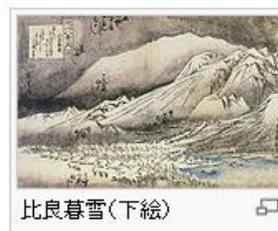
三井晩鐘



唐崎夜雨



堅田落雁



比良暮雪(下絵)

耳寄り情報

- ・真珠湾やマレー沖海戦で、航空戦略が重要であることが判ります。どのような巨大戦艦でも、束になった爆撃機には勝てないことが明らかになりました。しかし、当時の日本には、空軍が有りませんでした。海軍と陸軍は「海軍航空隊」と「陸軍航空隊」という形で、それぞれ別個に航空隊を持っていたのですが、両者はまったく別の兵器体系だったので、ネジの大きさもエンジンの規格も違っていました。そうすると、陸軍は陸軍の、海軍は海軍の飛行機の部品しか互換性が有りません。
- ・それに対して、米軍の兵器の規格はみな共通していました。だから戦場で、壊れた機種が何種類かあっても、それらを合わせて一つの航空機を作ることが可能だったのです。これでは、ただでさえ生産力の低い日本が、アメリカと互角に戦えるはずが有りません。しかも、海軍は戦争末期まで資源等の分配を巡って、陸軍と争い続けていました。これは陸海軍共に、セクショナリズム（縄張り意識）が骨の髄まで染みわたっていたからです。
- ・そうしたロジスティックス（兵站）軽視とセクショナルイズムが端的に表れたのが、1942年（昭和17年）以降、陸軍が一生懸命に航空母艦を建造したことです。ミッドウェー海戦のあと、海軍が輸送船の護衛をしてくれないからと、陸軍は「あきつ丸」をはじめとする四隻の揚陸艦を航空母艦に改造しました。さらに陸軍は、艦載機まで自力で開発しています。世界の陸軍で空母を造ったのは、おそらく日本だけではないでしょうか。
- ・その時、海軍は何をしていたか。回状を回して「陸軍の造った船であって敵艦ではないので、沈めない様に」と知らせただけです。実際に調べてみると海軍は、陸軍船を敵と勘違いして、何度も攻撃しています。まさに絵に描いたような、自滅する縦割り組織の典型だったのです。（以上 佐藤優著書より）

第5.2節 近江八景と琉球八景

2019年08月 第18号

前号に続けて近江八景の読み方と広重による絵画を紹介し、薩摩藩に組み込まれていた琉球の八景を紹介します

5.2.1 近江八景（2）

まず近江八景の読み方と中国の瀟湘八景とを対比させて示します。

近江八景

- ① 粟津晴嵐（あわつせいらん）（あわつはら 大津市）
- ② 矢橋帰帆（やばせのきはん）（矢橋 草津市）
- ③ 勢多（瀬田）夕照（せたのせきしょう）（瀬田の唐橋 大津市）
- ④ 三井晩鐘（みいのばんしょう）（三井寺・園城寺 大津市）
- ⑤ 唐崎夜雨（からさきのやう）（唐崎神社 大津市）
- ⑥ 石山秋月（いしやまのしゅうげつ）（石山寺 大津市）
- ⑦ 堅田落雁（かたたのらくがん）（浮御堂 大津市）
- ⑧ 比良暮雪（ひらのぼせつ）（比良山系）

中国の瀟湘八景

- 山市晴嵐
- 遠浦帰帆
- 漁村夕照
- 煙寺晩鐘
- 瀟湘夜雨
- 洞庭秋月
- 平沙落雁
- 江天暮雪

描く情景は全く同じですね。次は広重による八景図です。



石山秋月



勢多夕照



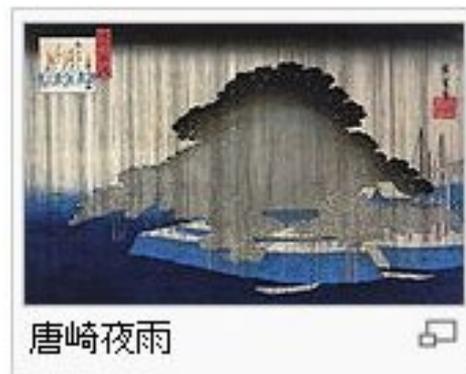
粟津晴嵐



矢橋帰帆



三井晩鐘



唐崎夜雨



堅田落雁



比良暮雪(下絵)

歌川広重・近江八景図（江戸後期の代表作）

（前号の図を拡大再度掲載しています）

5.2.2 琉球八景

15世紀初めに誕生した琉球王国は、中国との冊封(さくほう)関係の中で独自の文化を育んできたが、1609年(慶長14年)にあった薩摩藩の琉球侵攻により幕藩体制に組み込まれることとなり、徳川将軍や琉球国王の代替わりのたびに、琉球の使者が薩摩藩に伴われて江戸へ挨拶に行く「江戸上り」が義務づけられました。その回数は1634年から1850年迄に18回を数えました。江戸上りの際には、約1,000人の教養人で構成された琉球使節団が、1,000人を超える薩摩藩の役人や護衛に伴われ、瀬戸内海、美濃路、東海道を行き、江戸城へ向かいました。(一説によると、琉球使節団80人~200人、薩摩藩役人800人~950人の資料があり、合計1,000人以上で、江戸に向かった様です。)

中国風の衣装を身にまとい、路次楽を演奏しながら進むその異国情緒あふれる行列は、大変な評判となり、ひと目見ようとする人々で大騒ぎになり、特に、きらびやかな衣装を身に着けた「楽童子」は注目の的だったそうです。

江戸上りのたびにガイドブックの様な冊子が出版され、行列の様子を描いた図や浮世絵も制作される等、江戸城下は異国趣味の「琉球ブーム」で盛り上がりました。そのブームの中で制作されたのが、葛飾北斎(宝暦10年9月23日<1760年10月31日>?-嘉永2年4月18日<1849年5月10日>)の『琉球八景』で、制作されたのは天保3年・1832年頃(天保3年は、今から187年前)の16回目の江戸上りにあわせて制作されたと思われます。

「琉球八景」は琉球の景勝地を描いた錦絵（多色摺りの木版画）全8枚で構成されており、1823年の江戸上りにあわせて制作されたと思われます。ただ、北斎は異国である琉球を訪れてはいないので、1756年来琉した冊封使・周煌が書いた琉球の見聞録『琉球国志略』に収録された絵図（「中山八景」）を元に描き、想像で着色したものとされています。そのため、描かれているのは実在した場所ですが、幻想的な雰囲気の商品になっています。北斎の想像力で元絵にはない舟や人物も描き加えられ、中には琉球には無い雪や富士山が描かれたものまであります。尚、北斎は琉球を舞台にした滝沢馬琴の伝記物語『椿説弓張月』の挿絵も描いています。

「琉球八景」は次の通りです。

- | | |
|------------------------------|---------------------|
| ① 泉崎夜月（いずみざきやげつ）、 | ② 臨海湖声（りんかいこせい）、 |
| ③ 糸村竹籬（くめむらちくり）（ちくりとは垣根のこと）、 | ④ 龍洞松濤（りゅうどうしょうとう）、 |
| ⑤ 筍崖夕照（じゅんがいせきしょう）、 | ⑥ 長虹秋霽（ちょうこうしゅうせい）、 |
| ⑦ 城嶽靈泉（じょうがくれいせん）、 | ⑧ 中島蕉園（なかしましょうえん） |

閑話休題 冊封：冊封の原義は「冊（文書）を授けて封建する」と言う意味であり、封建とほぼ同義である。冊封を受けた国の君主は、王や侯といった中国の爵号（爵の称号）を授かり、中国皇帝と君臣関係を結ぶ。この冊封によって中国皇帝の（形式的ではあるが）臣下となった君主の国のことを冊封国という。このようにして成立した冊封関係では、一般に冊封国の君主号は一定の土地あるいは民族概念と結びついた「地域名（あるいは民族名）＋爵号」という形式をとっており、このことは冊封が封建概念に基づいていることを示しているとともに、これらの君主は冊封された領域内で基本的に自治あるいは自立を認められていたことを示している。したがって、冊封関係を結んだからといって、それがそのまま中国の領土となったという意味ではない。



臨海湖声



泉崎夜月



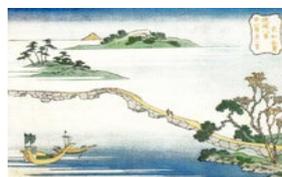
糸村竹籬



龍洞松濤



中島蕉園



長虹秋霽



城嶽靈泉



筍崖夕照

ここまで3種類の八景を見てきましたが、「月（夕暮）」、「海（入江や池）」、「松（竹などの樹木）」、「秋（季節）」など共通していることがわかります。憧れとか恐れや郷愁が美に結び付いている様ですね。昔ロシアの戦争に傷ついた兵士達を描いた絵を見て驚いたことがありました。悲惨なしかも汚い光景を描く絵画を美術といえるのかどうか……。有名なピカソのゲルニカを写真で見ました。戦争の絵でもあそこまで抽象化比喩化してあるのは「うならされます」。

人生を豊かに（雑学のすすめ）

A. 「入舞」（いりまい）という美しい言葉

阿弥（1363年？～1443年）が62歳の時に著した「華鏡（かきょう）」に出てきます。舞楽などで舞い手が一旦退場した後もう一度舞台に戻って、名残りを惜しむかのように一舞い舞って舞い収めることを言うのだそうです。

世阿弥のいう「入舞」は、さらに進んで老境に入った能の名手が、もう人生の最後というところ、壮年の役者には及びもつかない芸境の能を演じて観衆を感動させるようなこと指しています。

世阿弥は「花鏡」の「劫之入用心之事（こうのいるようじんのこと）」の章で、「劫（こう一年功のこと）」が大切だが、「劫」に安住して、老後の発展が停滞しないように戒めています。「住劫（じゅうこう）」という過去の栄光にしがみついて何の発見がなければ進歩もないことを嫌っています。どうすれば「住劫」を避けられるでしょうか。「花鏡」の最後の章「奥段（おくのだん）」で優れたアドバイスをしています。有名な「初心忘るべからず」の項です。三つの初心、「是非の初心」「時々の初心」そして「老後の初心」について説いています。「老いの入舞」を可能にする「老後の初心」とは一体何でしょうか。

寿命には限りがあるが芸能には果てが有りません。もう体もきかず、やらない方がましということもあります。しかし、そうなってからこそできる重大なこともあります。それを発見することです。現在や将来の問題を見据えて、理解を深めていくことによって、この時期でなくては出来ない発見に参加することが可能になるかどうかです。600年以上前の気迫ある言葉を耳元でささやいています。

B. 「成田国際空港開港40年（2018年）」

・1962年（昭和37年）から新たな東京国際空港の候補地の調査が開始されました。1965年（昭和40年）6月1日に成立した「新東京国際空港公団法」の検討に着手し、千葉県浦安市沖の埋立地、千葉県富里市・八街市、茨城県浦安沖、神奈川県金沢八景沖の埋立地等が候補地でした。

結果は当時の佐藤栄作内閣が1966年7月4日（昭和41年）に閣議決定をしました。その理由は、国有地（宮内庁の御料牧場や県有林）と、周辺は戦後開拓農民の所有地で、用地買収が容易と考えたそうです。しかし事前説明がないままに買収に伴う移転や騒音問題から地元農民の一部が大反対。「三里塚芝山連合空港反対同盟」に日本の新左翼が支援をし、ゲリラ闘争（三里塚闘争）が行われ、機動隊の投入となりました。犠牲者の発生や列車の放火等が重なり、開港にこぎつけた4日前の1978年3月26日（昭和53年）に管制塔にゲリラが乱入し、開港は約2月延長の5月20日になりました。

・2018年の航空機発着回数は、国際線を中心に年間を通じて新規就航、増便が相次いだことから、前年比1%増の255,003回と、7年連続で開港以来の最高値を更新しました。

・国際線発着回数においては、ノックスクートやマンダリン航空、フィジー・エアウェイズ等の新規乗り入れに加え、アジア線を中心に増便が相次いだことから、前年比3%増の202,953回と、4年連続で開港以来の最高値を更新すると共に、初めて20万回を突破しました。

・国際線外国人旅客数が好調により、前年比5%増の42,601,130人と、5年連続で開港以来の最高値を更新しました。

・国際線の好調さは持続されていますが、国内線の利用者数は前年比4%減、発着回数も前年比4%減となっており、主に第3ターミナルを主体とするLCCが新路線を開設する一方、伸び悩んでいる様子が垣間見えます。

第5.3節 水戸光圀と武陽玉川八景

2019年10月 第20号

17世紀に来日し金沢八景の生みの親ともいえる民国の僧話、更に江戸の庶民活動から武陽玉川八景の誕生に至る経緯を紹介します

5.3.1 東臯心越禅師と水戸光圀

民国の東臯心越禅師（とうこう・しんえつぜんじ）（1639～1695）の来日は1677年（延宝5年）でした。禅師が現在の横浜市金沢の山の上の能楽堂から見た景色を故郷の瀟湘八景になぞらえて漢詩を詠んだのが「武州能見堂八景詩」で、これが金沢八景になりました。1694年（元禄7年）の心越禅師が56歳で亡くなる約1年前となります。

金沢の地に瀟湘八景を擬す試みのあった事が、慶長19年（1614年）三浦浄心（後北条氏の遺臣、三浦五郎左衛門茂正）の随筆集慶長見聞集でも記されています、ところがこの書には寛永期（1624～44）の内容も含むので、後人の仮託（理由付け）ともされています。中国浙江省金華府浦江県には中国最大の湖西湖があり風光明媚な場所として有名で西湖十景があります。

東臯心越禅師は中国浙江省金華府浦江県の生まれ、32歳のとき杭州西湖の永福寺に入山しました。17世紀半ばの中国は、明朝が滅び清朝に替わる際の混乱期で、それを逃れるため長崎興福寺の澄一（ちんい）の招きにより日本に渡来しました。いわば、戦争難民のような形での渡来だったのです。

禅師は全国行脚による温泉湯治を行うことが好きだったようです。それが災いし、行脚中に明のスパイと勘違いされ投獄されてしまいました（1683年・天和3年）。その際、禅師の身元引受人となったのが光圀であり、光圀と禅師の親交はそこから始まったといわれています。

浮世絵師として有名な歌川広重も、天保七年（1836）ごろに金沢八景の風景を一枚ずつ描いています。金沢八景の浮世絵の中でも金龍院版が最も代表的な作品です。文化人のあいだでは、見る者の視覚に直接訴える作品で、好評であったようです。

陰影を尊重する暗香疎影瀟湘八景は、北宋11世紀末に成立した瀟湘八景に端を発します。この八景型の陰影礼賛は、12世紀には中国から日本に八景の題、また風景の見方として移入されました。



中国・浦江にある心越禅師像

5.3.2 平安な江戸庶民の楽しみ：旅行

江戸時代は安定していたので、旅が盛んになりました。例えば、「お伊勢参り」（三重県伊勢市・伊勢神宮）、関東の「富士信仰」です。「富士信仰」は平安時代以来、山岳修験道が民間に広まり、江戸時代の富士講の組織後に関東地方で多くの信者が参加しました。一種の信仰ブームです。

更に武陽玉川八景図につながる、「大山参り」は奈良時代（755年）に開山した神奈川県の大山の山頂に祀られた石尊大権現と、中腹の大山寺を中心とした真言密教の修験道場の発展形です。大山参りは、日本橋～赤坂～三軒茶屋～二子の渡し～二子宿・溝口宿を經由して、大山に向かいました。校友会川崎支部の拠点である溝口は、大山街道（国道246号線）の宿場町でした。当時は大山詣（雨乞い信仰）と

江ノ島詣を一緒に組み合わせさせていた様です。

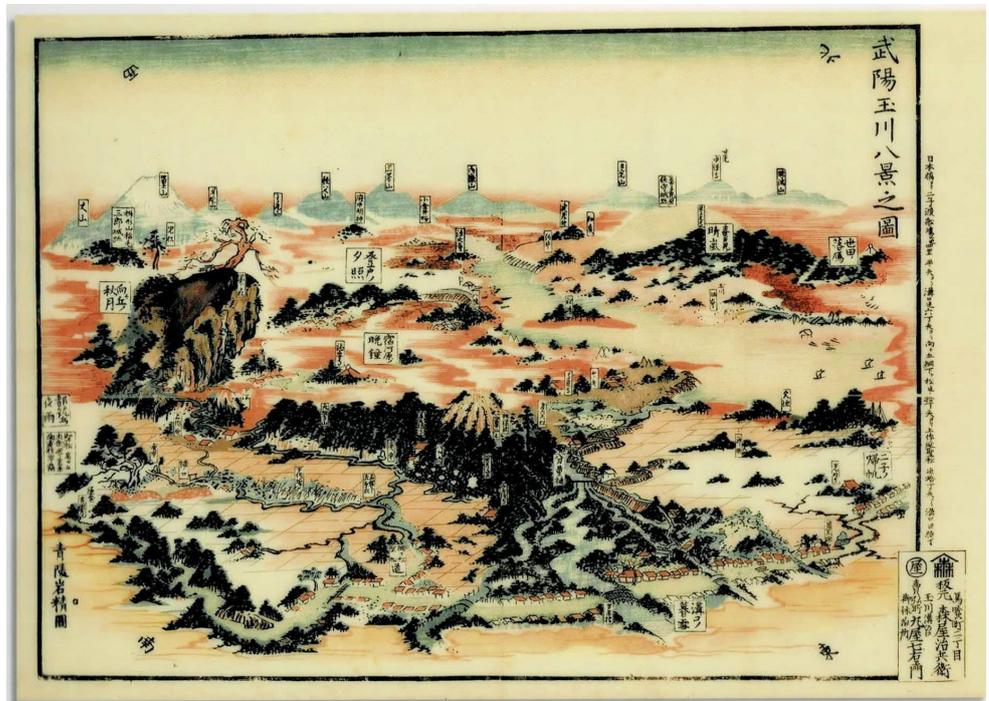
伊勢神宮参り、富士山参り、大山参りは、長期間・中期間の信仰の団体旅行の様なものです。「金沢八景」、「武陽玉川八景」「玉川八景（行善寺）」や川崎大師参りは、日帰り、1泊2日、2泊3日等のプチ旅行ですね。

江戸時代の瓦版（かわらばん）は、世相の時事性や速報性の高いニュースを扱い、街頭で内容を読み上げながら売り歩いたので、新聞報道とラジオ報道を兼ね備えていました。「奥の細道」（松尾芭蕉）、「東海道中膝栗毛」（十返舎一九の滑稽本）（川崎支部便り 2018年9月号川崎万年屋を参照）、「好色一代男」、「曾根崎心中」、「風神雷神図」、「見返り美人」等明治時代、大正時代の生活感に影響を与えたように思えます。

5.3.3 武陽玉川八景

武陽玉川八景之図（川崎市立中原図書館所蔵）

「武陽玉川八景」は多摩川の二子橋（大正時代の末に、現在の二子橋が架かる迄は二子の渡して多摩川を渡りました）から、多摩川の上流の現在の登戸間を、川崎側からの情景を詠んだ詩と、観光案内図の様な「武陽玉川八景之図」が発刊されました。この聞きなれない「武陽」とは、「江戸表」（えどおもて）の意味で、多摩川は江戸南側



の大事な防衛線でした。その後の最初の二子橋は、1925年7月（大正14年）に架かりました。

1791年（寛政3年）に青陵岩精が作成した「武陽玉川八景之図」は、江戸馬喰町の森屋治兵衛が版元となり、江戸時代に溝口村の名主の丸屋七衛門が、当時盛況だった大山詣の人々に大山街道（国道246号線）往来の人々に販売しました。今日の観光案内パンフレットでしょうね。

この絵図が火種となり、現在の二子玉川の川崎側の「武陽玉川八景」、東京側の「玉川八景（行善寺八景）」が江戸市民のお手軽旅行（日帰りや1~2泊旅行）になりました。また、二子玉川と二子新地の両岸では舟遊びや、將軍家献上の鮎で有名な川魚料亭が並び、きれいどころを揃えた粋な店が増え、江戸近郊の游興行楽地になりました。タイムマシンで体験してみたいですね。

溝口の丸屋が販売した武陽玉川八景之図に添えた佐野渡（さのわたり）の和歌八首を見ましょう。佐野渡の和歌八首はつぎのとおり

- [都筑ヶ丘夜雨] 大松に近き都筑の夏木立 嵐も時に夜の雨かな
- [喜多見ノ晴嵐] 実を結ぶ梅の雨とて南寄り 喜多見に晴るゝ朝嵐かな

[登戸ノ夕照] 登戸の口もまっかに夕てりの うつりすぎてや色のさゝ色

[向ヶ丘ノ秋月] 綱下げの秋の月見を夏の日や あつき利生に祈誓かけたり

[溝ノ口ノ暮雪] 六月の雪を沢山ぬり桶に つゝみ余りたる溝口のくれ

[瀬田ノ落雁] 近江路をかたゝ（堅田）をせた（瀬田）にうつしけり かりの名つけて人にしらさん

[二子ノ帰帆] 夕風を孕んで帰るむしろ帆に 月の生まるゝ二子すずしき

[宿河原ノ晩鐘] 入相のかねには花の江戸っ子も みなちりかゝる宿河原道

「武陽八景之図」の中央やや下に見える「分量樋」は「稲毛川崎ニケ領用水」の久地分量樋（昭和16年に、やや下流側に現在の「円筒分水」として造り替えられている）のことで、大小4本の堀に分かれている様子が良く分かります。

人生を豊かに（雑学の進め）

今回は「とか言葉」（意味不明）と「察し」が主体です。デパートに行くと、「保健所の指示によりペット類の持ち込みはご遠慮下さい」と食品売り場に掲示が出ています。ある大学の教授が「ペット類とありますが、犬猫等のペット以外に何か考えているのですか」とマネージャーに質問したところ、「さあ、別に……」と睨みつけられたそうです。これは「とか言葉」と同じです。

好き嫌いを比較的是っきり言う若い人達も、そういう点になると、昔ながらの日本的思考を持ち続けているのでしょう。バレンタインのチョコレートを本命とアッシー君、ミツグ君、或いは義理チョコと、使い分けるのにくよくよと考えあぐむところは、イエスとノーがはっきり言えない日本人根性丸出しです。

あるアメリカ人が、日本語の「結構です」という表現が、どうとっていいか難解と言っていましたが、なるほど「それでオーケーです」というのか「ノーサンキュー」と断っているのか、言われた方は迷うでしょう。しかし、日本人はあまり困りません。相手の意思を推測する「察し」の能力を備えているからです。

買い物で、「今、切らしているんですけれど」と言われると、アメリカ人は「けどなんだというのだ」「けれども何かしましょうかと言っているのか」と考えます。あれは、「とか言葉」と説明しても、理解しにくいでしょう。日本人なら「今、切れています」では不愛想で喧嘩腰に響くことを無意識に悟り、文末を和らげるために「が」「けど」「けれど」を使用します。ところが、学校で教える文法の教科書には、この様な文末表現法は記載していません。教室文法でも「察し」が必要ななのでしょう。日本的ですな。

日常生活のレベルでなら、これでも結構ですが、これが国際問題になるとすんなりとはいかなくなります。あの宮沢首相の米国労働者のワークエシックス（Work Ethics－労働倫理）についての発言は、日本で聞くと巧みに用語を選び、慎重な判断の上でなされています。しかし、冗長さを嫌いコンピューターの二進法で割り切ると結果的に、「アメリカ労働者は怠け者」という発言をしたことになってしまいます。竹下首相式に、「といった風に考えられないものか」と思っているところなのですが……」といった言い回しは英語に翻訳出来ません。要するに、あれも政治家の「とか言葉」ですから、誰かが文法を書いて、外国人にも詳しく説明する必要が有ります。

閑話休題 宮沢首相の国会答弁（衆院予算委員会、1992年2月）と海外メディアの発信記事を掲載します。

武藤義文氏の質問：「人間は働くというところに良さがある。働きすぎはいけないが、与えられた間だけはきちんと働くのは正しい勤労の姿だ。米国の人にわかってもらうよう日本は努力していくべきだ。」

宮沢首相：「確かに今、米国に欠けているのは、ここ10何年、ここに至った所以を見ると、物をつくるというか価値を生むということについての解釈が非常にルーズになってきたと申すか、マネーゲームでも価値を生むには違いないだろうが、額に汗して一つの物を創造していくという勤労の倫理、そういうものが、コンピューターなんかにも関係がありまして、大学を出た若い人が大変な高給を持ってウォールストリートにたくさん入ってしまった。その結果として、物を創るエンジニアがどんどん減っていったことをみている。そういうことでマネーマーケットが進み、ジャンクボンド（信用度の低い高利回り債権）が登場してきた。ジャンクボンドは危険なもので、LBO（買収先の資産を担保にした借り入れによる企業買収）というものも金を持たずに買収し、その結果倒産してしまう。こういった誰が考えても長続きしないことをここ十年余りやってきた。その辺のところに働く倫理が欠けていたのではないかとずっと思ってきた。ある意味でわが国のバブルにもそういう要素があった。あれは国民全体に対する教育であったとすら思う。額に汗して価値をつくりあげていくことが大事で、ブッシュさんが教育と言っているのもそのためではないか。」

APの発信：I have long thought that they (Americans) lack a work ethic.

ロイターの発信：Miyazawa asked in the Diet on Monday what he thought lay behind Japan – US. trade tensions, said, “I have long thought that they (Americans) lack a work ethic.”

AFPの発信：Speaking to a Diet committee earlier in the day, Miyazawa had said that “ I suspect that Americans have come to lack a work ethic.”

外務省による英訳は次の通りです。

I have heard your comment, which is easy to understand. [Your point would be] there is something that is lacking in America. Looking at what things have come to over the past 10 years: we might say that the interpretation of producing things or creating value has become very loose; it's that no one doubts that value can be created in the money market. Creating things by the sweat of our brows, a kind of work ethic, is related to various things. There is probably even a connection with computers. People graduating from universities are going to Wall Street for high salaries. As a result, the number of engineers, who actually make things, is shrinking, something Representative [Kabun] Muto and I both see.

While we were debating whether this situation was all right or not, the money market advanced and junk bonds appeared -- junk bonds, just as their name implies, are very dangerous. We have these leveraged buyouts where those without their own money can buy up things, and then, unable to pay the interest on their debts, [the companies] fall into bankruptcy. It should be obvious to anyone that such a situation could not continue long.

Yet, over the past 10 years, this very situation has continued. *I have long felt that this might involve something like a lack of a work ethic.* I think what you are worrying about is related to this situation. In one sense, there are many of those same elements present in what has been called Japan's bubble economy. After this bubble [burst], both [countries] now have a lot to clean up in the aftermath, and all of our people learned a lot from this. It is very important to build things of value with the sweat of our brows. This may sound like a sermon, but what I have said is what I feel. When President Bush talks about education, I believe he is trying to reiterate the above kind of message.

第5.4節 武陽玉川八景界限

2019年12月 第22号

武陽玉川八景にまつわる綱下げの松と、東京側から見た玉川八景（行善治八景）について述べ、この章の終わりとします。

5.4.1 綱下げの松と松寿弁財天

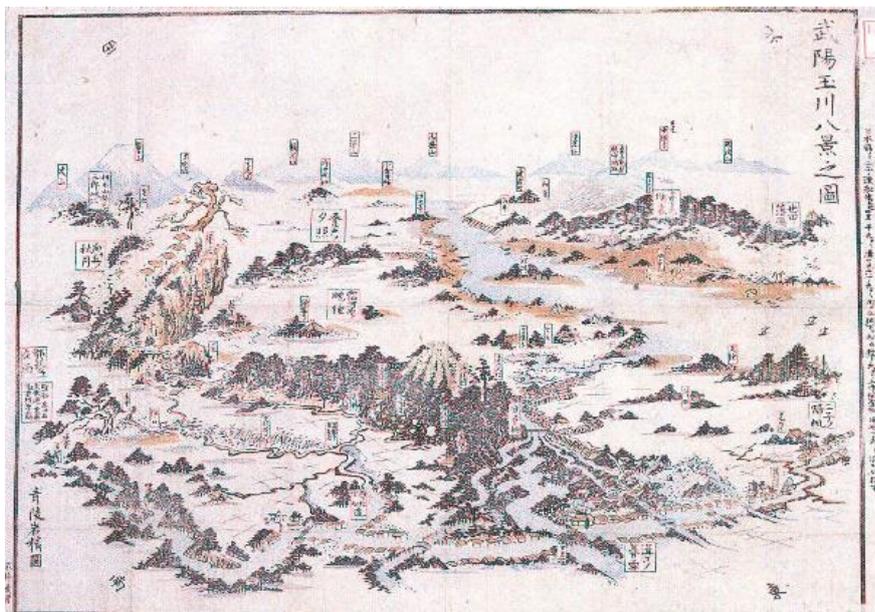
前回佐野渡（さのわたり）の和歌八首をご紹介しました。佐野渡（1762年～1837年 宝暦12年～天保8年）は江戸時代の狂歌師で、「武陽玉川八景之図」の刊行が1791年（寛政3年）なので、詠まれた詩は刊行の前か後か不明です。この絵図の販売から62年後の1853年（嘉永6年）にペリーが浦賀に来航する前までは、明治維新に向かい日本国内が慌ただしくなることは予想もしていない安定した日々でした。しかし、国内では武揚玉川八景之図販売の9年後に、天明の大飢饉（1782年）、天保の大飢饉（1833年）、大塩平八郎の乱（1837年）、天保の改革（1841年）等が発生していました。

詩に詠まれた都築ヶ丘の「都築」は、東京都市大学の横浜キャンパスがある横浜市都築区となり、大山街道（246号線）の二子宿から約7km 弱の宮前区から近いので、観光を兼ねて詩を詠みに出かけたのではないのでしょうか。

1) 当時の賑わい

玉川八景の詩、向ヶ丘の秋月では、「綱下げ」の松を取込んでおり、この最寄りの駅は久地駅になります。川崎市営の緑ヶ丘霊園の一角に「松寿弁財天」があり、この弁財天にある松が「綱下げの松」です。ご利益のある松寿弁財天と一本の松の大木が靈験あらたかとの風評が立ち、近隣の村々だけでなく、江戸の文人墨客達が参拝に押し寄せたそうです。

綱下げの松や田畑は彦根藩世田谷代官所で管理し、1832年（天保3年5月）の代官所の記録では「この節枯木靈験これあり、御内府より貴賤老若男女諸侯方ならびに奥方参詣（さんけい）」と記載されています。將軍家までが参拝に来たということは、かなりのご利益があったからでしょう。参拝の多い最盛期には、丘の上や下の下綱には、84軒の茶屋や料理屋がひしめいていたそうです。1791年発売の武揚玉川八景之図には、松の近くの丘の下に、それと思われる建物が見えます。第5.3.3節に掲載した図と比べてください。この図は後述するように風紀の乱れから茶屋や料理屋が取り壊される前の図と考えられます。

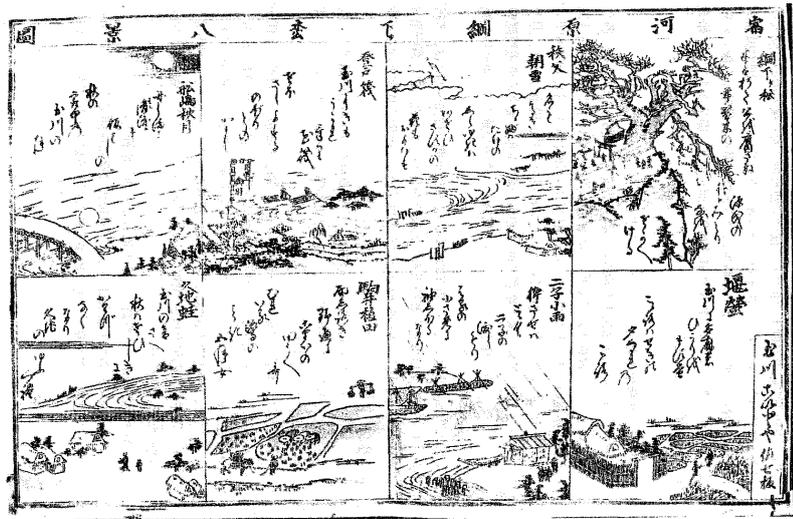


(武陽玉川八景の図)

天保4年（1833年）末には役人の手で綱下げの松を撤去し、天保3年（1832年）の春頃から天保4年末迄の綱下ヶの松詣の大変な賑わいは、僅か2年足らずで終焉を迎えました。いつの時代でもやり過

ぎ、騒ぎ過ぎには注意しましょう。

松寿弁財天は参道の途中に「霊水久地の井戸」があり、方位除けの霊水と言われ、方位の悪い所に霊水を撒いて清めたり、眼病、安産の霊水、防火、水難、金運等の御利益があるそうです。「巳の日」には宿河原駅に近い常照寺が中心で、弁財天護摩供養が行われているそうです。この常照寺には綱下げの松と松寿弁財天の伝説を基に、江戸時代末の安政5年（1858年）



版4 宿河原綱下ケ松八景図 天保三年（一八三二）頃
（都立中央図書館特別文庫室所蔵）

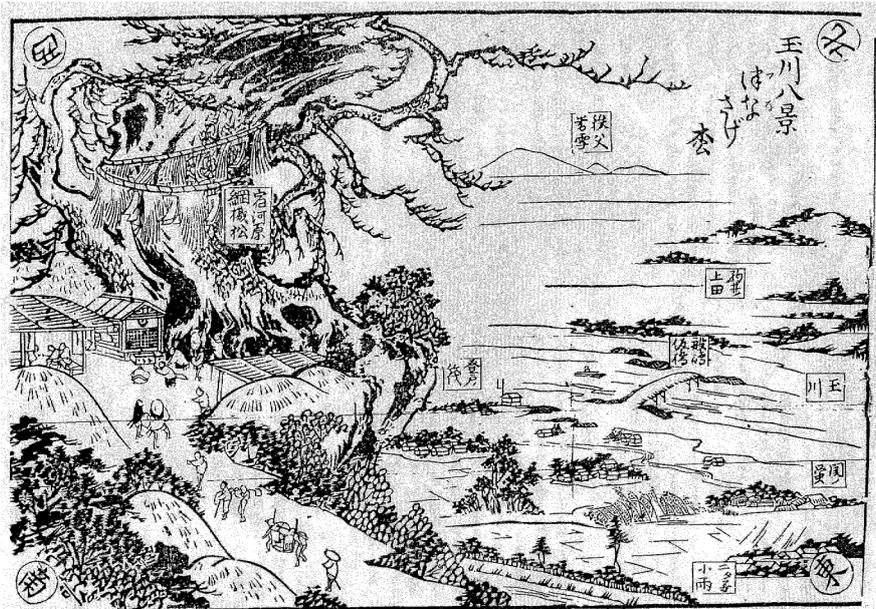
（宿河原綱下ケ松八景図）

に杜水絵師による紙本墨画着色の「松寿弁財天図」（川崎市歴史記念物）を所蔵しています。寛政3年（1791年）に「武陽玉川八景之図」が発売されてからも、「宿河原綱下ケ松八景図」の他、江戸からの参拝者向けに案内図（ガイドマップ）が発売されていた様です。

2) 綱下げの松の由来

綱下げの松の由来には、①鎌倉時代（1185年～1333年）の北条政子の妹を妻に持つ枳形山城（現在の登戸）城主の稲毛三郎重成の許に源頼朝が立ち寄った際に、高台に松の杭を打って綱を下げ、御座船を繋いだ杭から自然に枝葉が生えてきて成長した松との伝説。（武州稲毛宿河原村綱下げ松縁起）②豊臣秀吉の小田原の陣の時（1589年～1590年）に八王子にあった神宮寺の城に向かった兵が、この松に綱を結び付けて丘を下りたことからの伝説。③1822年6月（文政5年）多摩川の大洪水が発生し、

上流から家屋や畑を押し流し宿河原村に向かってきたので、村人は松のある現在の多摩丘陵の上に避難しようとしたのですが、多くの村人は流されました。闇夜に丘陵の松から光が差し込み、白い布（綱）が一本するすると下がってきて、村人達は「あっ！命綱だ」とその綱にすがって丘の上に逃げたので救われました。一夜が明け、村人が松の所に行くと綱はなく、松の下に白蛇がいたとの伝説。この時に白蛇を祀る弁財天が誕生したのかもしれませんが。



（玉川八景綱下げの松）

この綱下げの松は長尾村、上作延村、下作延村、宿河原村の村境（現在の宮前区・多摩区・高津区）に位置します。

3) 綱下げの松の起源

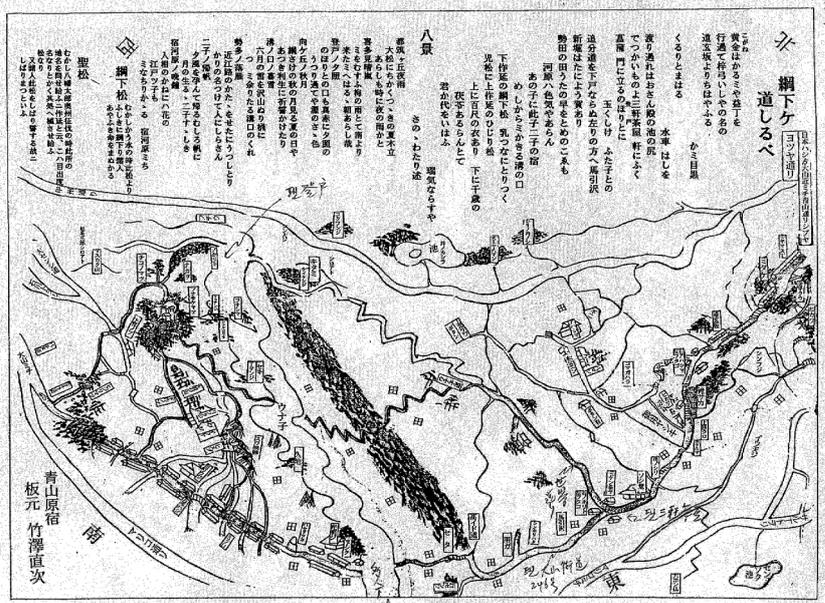
一方、綱下げの松は古くからあったことが判ります（鎌倉時代の源頼朝御座船説なら 12 世紀末、頼朝の没は 1198 年）、秀吉の小田原の陣説ならば 16 世紀後半には綱下げの松が生息していました）。この地は古代の縄文時代中・後期の集落や古墳や古代の祭祀場が近くにあり、古くから御利益が有る聖松（ひじりまつ）で、蛇は水神様の使いと考えられ、多摩川に近くて松に重ねたことも想像されます。1791 年に発売開始の武揚玉川八景之図では、松寿弁財天の社（やしろ）、祠（ほこら）や鳥居が描かれています。更に、1830 年頃（天保 1 年頃）に出された「宿河原綱下ヶ松八景図」を見ても、社と鳥居が綱下げ松の大樹の下に描かれています。

古からの言い伝えから想像すると、高熱を出した老婆が夢うつつで松の霊のお告げを聞き、切った松の枝を基に戻したところ病が癒え、祈れば願いが叶う話が村人に広まり、有志で松の霊とその使いの白蛇を祀ったのが弁財天祠の誕生ではないかと思えます。この話は「武陽玉川八景之図」が発行された 1791 年以前なことは、間違いないでしょう。社（やしろ）は神を祀ってある所で、祠（ほこら）は神を祀った小さな社のことです。宿河原常照時は綱下げの松と一緒に松寿弁財天の祭事を行う寺で、綱下げ松と松寿弁財天を祀っているお寺です。

松寿弁財天の祠の誕生は、これまでの現地を含めた調査でははっきりした創建年代の明記が見えませんでした。宿河原の常照寺からのお話でも昔のを知る方がいなくなり、はっきりした資料が無い状態です。鎌倉時代まで遡るのか、この祠は庚申塚の祠の様なものか、想像するだけでわくわくします。どなたか情報があれば、是非ご連絡をお願いします。1832 年（天保 3 年）の夏、徳川家慶を二子玉川遊行で迎える時、江戸幕府は寛政の改革や天保の改革の最中で、この賑わいに目を光らせていた橋樹郡稲毛領の代官中村八太夫が参道で酔いつぶれた婦女子の宿泊、宇奈根（川崎支部恒例のパークゴルフ大会会場の近く）渡し、二子の渡し、溝の口からの近道争い等、目に余る様々な行為から目が離せませんでした。

4) 道しるべ

江戸から綱下げの松へのルート案内の一例として、「綱下げ道しるべ」をご紹介します。出発は東京市ヶ谷の辰（たつ）の鐘（午前 7 時～9 時 市ヶ谷亀岡八幡宮の鐘と思われる）を聞きながら、四谷御門前を通り、鮫ヶ橋（さめがはし、現在の中央線信濃町駅東側で干日谷と言われていた）を過ぎ、久保町（池波正太郎の鬼平犯科帳に登場する久保町は現在の北青山で、正式には「青山久保町」）を通り、百人町（現在の新宿 6 丁目・7 丁目や歌舞伎町 2 丁目当りと思われる）へ進み、尼寺である善光寺（長野県の善光寺と関係があり、青山



(綱下げ道しるべ)

通りと表参道交差点付近)に至ります。

この前を通り、筭(こうがい)橋(現在の南青山6・7丁目から西麻布2丁目付近)の同僚(綱下げの松之図の販売協力者か?)の高嶋に立ち寄り、お茶屋で図の売れ行きを見てから再び青山通り(246号線)に戻り、宮益坂へ向かいます。宮益坂の茅屋を過ぎて長い坂(現在の渋谷駅に向かう宮益坂を下った道玄坂と思われる)がある宮益坂の途中に、御嶽(みたけ)神社(現在の渋谷郵便局を横に入った宮益御嶽神社)があります。神社参拝後、札炙り(あぶり)不動で富の倍増祈願をし、更に道玄坂(医者の道玄の名が由来)を登り切り、上目黒村に入ります。坂を少し下がると氷川神社があります。江戸時代に富士山を対象とした民間の信仰が広まり、富士講で富士山登頂や祠を作り信仰をしました。

この氷川神社を参拝したかは不明ですが、更に下ると水車橋(現在の目黒川)を渡ると清姫稲荷を祀る池尻稲荷神社(技芸のご利益が有るお稲荷さん)があり、三軒茶屋に向かいます。三軒茶屋の地名の由来は、江戸中期以降に社寺参拝ブームで多くの江戸市民で賑わった大山道(玉川通り・矢倉沢往還)と登戸道(世田谷通り・津久井道往還)の追分(分岐点)となり、周辺には信楽(しがらき)(後に石橋楼・旅籠・料亭旅館の最後の一軒)、角(かど)屋、田中屋の三軒の茶屋がありました。角屋は明治時代に閉店、信楽は終戦後に閉店、田中屋は現在陶器店として健在です。気候が良い5月初めには、一日で10両もの商いが出来たそうです。

ここで左に曲がると二子の渡し、直進すると登戸方面になります。二子の渡しで二子宿、ニケ領用水がある溝口宿から下作延の「綱下げの松」、そして上作延の「聖(ひじり)松」です。この松の周囲に出かけると、子供が風邪をひくので、村人が松の根元を縛ったそうです。花粉が飛散したり、松葉を飛ばす風が強いことを表現しているのでしょうか。「しばられの松」は、松の根元を縛ることで風邪が治ったことからの言い伝えでしょう。

一方の登戸方面から向かうと、近くに勝光院(世田谷領主吉良氏の菩提寺)、豪徳寺(彦根藩主井伊氏の菩提寺)があります。豪徳寺を参拝後、勝光院を参拝して宇奈根へ向かいます。用賀村・横根村(現在の環状八号線と世田谷通りの交差点である三本杉陸橋付近)を過ぎ、坂道を下ると宇奈根に入ります。酒・飯を商う家が三軒あり、渡し舟で一竿指せば向かい岸に着きます。船賃は通常1人6銭ですが、夏は12銭になります。左右の丘の上に34軒の飲食店がありました、最高では84軒と増加し、美味しい鮎料理を提供していたそうです。対岸に渡り龍剛寺(JR久地駅近くの多摩区堰3-11-25)を通ると、宿河原村に至ります。少し先の小道を入ると木の鳥居が見え、左右に木綿の織立っていて松寿弁財天と書かれています。「山の高さは78丈(約236m)と見ゆ」と言われているのですが、それほど高いとは思いません。宇奈根の渡しの近道に人が集まり、減った二子の渡しと溝口ルートに参拝者を寄せる為、日本橋から二子の渡し場迄4里半(約18km)、そこから溝口まで拾丁(約1100m)、溝口から綱下げの松迄拾丁(約1100m)、更に上作延の聖松(しばられの松)迄拾丁(約1100m)、そして聖松から溝口迄拾丁(約1100m)、と記載された案内図が溝口の名主の丸屋から出版されました。参拝者を溝の口宿に多く呼びこみ、溝口宿にも多大のご利益をもたらすことを願っていたのでしょうか。

お江戸日本橋を出発し、二子の渡し近くには宇奈根・菅・野毛も有り、二子の渡し～溝口宿～綱下げの松～聖松～溝口宿で22.4kmとなり、健脚な江戸庶民は日帰りか1泊2日の旅行を楽しんでいたのでしょうか。この旅の続きは登戸経由か、宇奈根の渡し経由か、二子の渡し経由か、男女・子供同伴なのか、興味を掻き立てますね。

次は玉川八景(行善寺八景)について、お話ししましょう。

5.4.2 玉川八景（行善寺八景）

現在の瀬田の高台から多摩川対岸方向を眺めると、マンションや商業ビル等が多く立ち並び、樹木が増えていますが、以前の多摩川の対岸方向を見ると、風景は四季を通して大変見事な眺めがあり、多くの文人・墨客（詩文や書画等に優れた風雅な人、墨で書画を描く人）、そして大山詣での人達や一般の江戸庶民も多く訪れたことでしょう。その上、徳川家慶もここを訪れているのです。特に徳川家慶の御膳所（食事所や休憩所）にもなった行善寺からの富士山が望める多摩川の眺めが美しいことから、眺めの良い寺の名前をとって「行善寺八景」とも呼ばれたのです。

多摩川の対岸の川崎側には「武陽玉川八景之図」が1791年（寛政3年）に発売され、添付した詩は佐野渡作です。1850年（嘉永3年）9月、深沢村（現在の世田谷区深沢、後の駒沢町）の歌人、太田子徳に誘われた江戸町内に住む師匠の本間游清（南八丁堀の国学者）と、その門人が玉川遊覧の旅で行善寺のすぐ上の瀬田村の名主・長崎長十郎重行邸に集い、行善寺客殿からの景色を本間游清が八つの題を出して、八首の歌を詠ませました。これが「玉川八景」、「玉川行善寺八景」の源だそうです。この旅行を計画主宰したのは、歌人・書家である江口忠房で、旅行後に紀行文「瀬田之記」をまとめたのです。参加者は歌人が9名、本間游清、夫人と子供、江口忠房の合計13名でした。

舞台となる「行善寺」の説明をしましょう。川崎支部定期講演会場の夢キャンパスがある二子玉川駅から徒歩約8分の、世田谷区瀬田1丁目の浄土宗寺院です。当時の大山道（矢倉沢往還）に面した高台にあり、景色が良く、江戸時代には大山詣での人々を始め数多の人々が訪れました。近くには瀬田遺跡や小田原北条家の家臣・長崎氏が居住した瀬田城跡の一角にあります。永禄年間（1558年－1569年）又は1590年（天正18年）に北条氏直臣の長崎伊予守重光父子がこの地に移住した際、小田原の菩薩所道栄寺を移転したことが発祥の様です。その重光の法号である行善から行善寺と名付けられました。特に、江戸時代中期から幕末の将軍になる前の徳川家治（いえはる）（第10代将軍）、はじめ家慶（いえよし）（第12代）、家定（いえさだ）（第13代）らか訪れ、御小休所や御弁当所になりました。

明治時代に刊行された「東京近郊名所図会」によると、徳川11代将軍家斉（いえなり）も行善寺を訪れ、ここを「観魚台」にしたそうです。徳川家とは深い関係が有ることが伺われます。その為、行善寺は徳川家の家紋である葵紋の使用を許され、今日でも行事の際に山門に掛けられる紋幕は葵の門のに入ったものが使用されています。現地を訪れると、高台の寺の建物からは多摩川沿いに大型商業ビルやマンションが林立していますが、現在でも富士山が見えるので、当時はさぞや絶景であったことでしょう。

行善寺で詠まれた詩をご紹介します。

- ① 瀬田黄稲（せたのおうとう） 調布をさらす少女も玉川の せたの稲刈ころはきにけり（佑良（太田子徳））
- ② 土峰（富士山）晴雪（しほうのせいせつ） つらなれるをちの高根に雪晴て 雪をうつせる玉川の水（さえ子（斎田小枝子））
- ③ 大蔵夜雨（おおくらのやう） 雨の夜もにきはひにけり大くらに みつきをさむる時や来ぬらん（高見（渡邊高見））
- ④ 二子漁舟（ふたこのぎょしゅう） 明けわたる空にやかふ玉くしけ 二子の川の舟のいさりひ（忠房（江口忠房））
- ⑤ 岡本紅葉（おかもこのこうよう） 玉川やさらせる布に岡本の もみちの色を移してしかな（美正（柏木美正））
- ⑥ 登戸宿雁（のぼりとこのしゅくがん） たまかはの水さして登りとに ますかた山を落るかりかね（林齋（岡嶋林齋））
- ⑦ 吉沢暁月（よしざわのぎょうげつ） ゆふくれもありとはいへとよし沢の 月のなかめはあかつきの空（惟艸（黒川惟艸））
- ⑧ 川辺夕烟（かわべのせきえん） たてかはす民の竈の夕けふり 賑ひしるき川のへのさと（游清（本間游清））

玉川八景（行善寺八景）の詩も「夜雨」「暁月」等の「八景」を選定するのは、八景の元祖となる中国の「瀟湘八景」にならい、室町時代以降日本でも行われる様になりました。「武陽玉川八景」と「玉川八景（行善寺八景）」もお互いに多摩川を挟んだ対岸にあったので、東京都市大学も素晴らしい環境に囲まれているのです。考え深いと思いませんか。

中国の瀟湘八景から「八景」が始まり、アジア、台湾、韓国、朝鮮、日本に伝わり、大きな良い影響を与えてくれました。川崎支部の本拠地である溝口地に大変近い武陽玉川八景、玉川行善寺八景、そして綱下げの松詣で等、徳川幕府支配下の泰平の世に誕生した江戸文化と近郊文化が融合したロマン溢れる歴史遺産です。しかし、この数年後の江戸末期になると幕末動乱による徳川幕府と武家統治の終焉を迎えることとなります。

5.4.3 江戸近郊八景

「江戸近郊八景」は1838年（天保9年）頃、歌川広重が江戸近郊の景勝地8か所を浮世絵として作成したものです。皆様が良くご存知の身近な場所です。

- ①吾孀杜夜雨（あづまもりやう） 墨田区立花 1-1-15（現在の吾孀神社の杜）
- ②玉川秋月（たまがわしゅうげつ） 大田区田園調布（現在の丸子橋辺り）
- ③羽根田落雁（はねだらくがん） 大田区羽田 6-13-8（江戸時代は湿地帯で、現在の羽田飛行場内に有ったとの事）
- ④飛鳥山暮雪（あすかやまぼせつ） 北区王子 1-1（八代将軍吉宗が1737年（元文2年）桜を植樹した現在の飛鳥山公園）
- ⑤池上晩鐘（いけがみばんしょう） 大田区池上 1-1-1（平間街道から見た池上本門寺の参道）
- ⑥行徳帰帆（ぎょうとくきはん） 千葉県市川市（行徳の入江）
- ⑦芝浦晴山（しばうらせいざん） 港区芝浦（芝浦の沖から漁港側を見る）
- ⑧小金井橋夕照（こがねいばしせきしょう） 小平市（JR中央線武蔵小金井下車 駅前の小金井街道を小金井カントリー倶楽部に向かう手前 桜上水の桜の名所）



（吾孀杜夜雨（あづまもりやう））



（玉川秋雨（たまがわしゅうげつ））

以上の内容は中国の「瀟湘八景」を元にした風景の描写を、歌川広重が1838年（天保9年）江戸から明治になる約30年前に浮世絵として世に送ったものです。昨年は明治から150年（2019年）ですが、2018年から数えると約180年前となります。現在は風景が大きく変化している場所が多いかもしれませんが、時間を作って散策してみるのもロマンかも知れません。

民法改正・健康、はやぶさ2などは第12章に掲載します。